



自治連だより

第15号



地域力の向上に 期待して

会長 池原 範雄

地域のコミュニティは、住民同士が力を合わせ、地域の課題解決や生活の安全・安心を確保するための基盤であり、住民が主体となった地域づくりを進める上で、重要な役割を果たしておりますが、それぞれの地域におきましても、住民の発想を生かした取組みや、過疎化や少子高齢化を見据えたユニークな取組みや、内外から高い評価をいただく中で、地域のコミュニティ活性化の大きな力になっていくことは、誠に喜ばしいことでもあります。

ところで、金言とする言葉の中に、「一生懸命だと愚痴が出る。いい加減だと言いつばかり」（北原照久）というのがあります。もちろん、カッコいいのは言い訳をしないことです。上手いかわないことがあっても、自分達にできることを一生懸命やってみれば、必ず光が見えてくるし、評価もされるようになる」という意が込められているように思います。さらなるご精進に期待いたします。



明治地区

手踊り復活から村づくり

明治地区区長
会長 村上 誘子

「エーコリヤー、三味線三筋の糸調べ、オイサ、サアサア来い来いヤワリトナ、エイツ」浴衣着の男が踊る。手笠が舞う。鳥取市一番の標高を持つ高山の麓、緑一色の安

蔵公園スキー場で、平成二十二年より、鳥取県東部の十数団体が集い、「鳥取手踊り・手笠踊りの集い」として毎年繰り広げられる光景である。

河内踊り隊は、平成十八年、途絶えていた河内地区に伝わる「踊り」を復活・継承するために結成された。地域の敬老会や文化祭、鳥取県生涯学習フェスティバル、日本の祭りにも参加し、他地区との交流も続けてきた。



十月六日（日）の「第四回集い」開催に向けて、今夜も遅くまで公民館から練習の声が聞こえる。

踊り練習後の談話の中で、増え続ける耕作放棄地を何とか活用したいということになり、ソバ作りを始めた。ソバができれば、次はそば打ち体験をしてみようということになり、大晦日には、年越しそばとして村全戸に配った。

放棄地対策は、学校給食用のサトイモづくりへ

と発展した。踊り隊を中心とする仲間は、農作業等受託組合として仲間を増やし、作付面積を年々拡大、現在九十アールでサトイモ栽培をしている。収穫時には、多くの村人を雇い、作業をするようになった。まさに村おこしである。作付けの種類も、タラの芽、コシアブラ、ラッカセイ、ナタマメ、コゴミ、稲作などへと広がっている。

さらに、地域の子どもたちとの交流を深めるために農業体験、料理教室などを行っている。

平成二十五年度 定期総会

平成二十五年五月十七日、とりぎん文化会館小ホールにおいて、各地区より選出された百二十一名の代議員が出席し、鳥取市自治連合会定期総会及び講演会が開催されました。

講演会では、「みんなでやらいやー支え愛のまちづくりに」のテーマで、前鳥取県福祉保健部長、林由紀子氏をお迎えし、「住み慣れた地域での生活が続けられるよう、安全で安心な支え愛のまちづくりが必要。」との町内会等地域の連携についてお話がありました。

総会では、池原会長があいさつを述べた後、永年にわたり町内会活動に功績のあった地区会長や町内会長等を務めて退任された三十六名の方々に對し、市長及び自治連合会長からそれぞれ感謝状と記念品が贈呈されました。

続いて、竹内市長及び湯口市議会議長から祝辞をいただいた後、被表彰者を代表して若葉台地区前会長の竹内築子氏から謝辞が述べられました。

市政概要では、竹内市長から「次の時代を創る」と題した鳥取市の取り組みについて、説明を受けました。

次に、議長団に下澤中ノ郷地区会長と土橋明德地区会長を選出し、議案の審議に入り、以下の議案が承認されました。

- ・平成二十四年度事業報告及び収支決算報告、監査報告
- ・平成二十五年度事業計画（案）及び収支予算（案）
- ・役員承認

新役員

会長	池原 範雄
副会長	山田 建雄
副会長	房安 一也
副会長	渡邊 勘治郎
副会長	南部 敏
副会長	村山 洋一
監事	大西 隆秀
監事	竹森 貞美
監事	西村 浩一

(文責 事務局)

若葉台地区

住民参加の ふる里づくり

若葉台地区まちづくり協議会
会長 中林興太郎

若葉台地区は、平成元年から入居が始まったニュータウンであります。現在約一、五〇〇世帯、人口五、〇〇〇人の規模がありますが、自治会の発足一六年の若い街であり歴史、伝統文化等はありませんが、周囲の景観、緑いっぱい

の町並みは『都市景観大賞』（一九九九都市一〇〇選）に輝く心豊かな街です。この景観を次代に引き継ぐこと、そしてこの地を我が『ふる里』として創造する喜びを地域住民の合言葉とし、課題の共有とコミュニケーションを基調に、他地域の皆さんとの交流を深め合いながら、住民参加の諸事業を楽しく推進してまいります。

以下、まちづくり協議会の

事業のうち、二件についてご紹介いたします。

- ① 『WAKABADA I イルミネーション』と、『コンサート』
- 平成二二年度より一二月クリスマスの期間に公民館前広場にて開催。



WAKABADA I イルミネーション

葉台冬の風物詩」として定着させたいと願っています。

- ② 若葉台地区内主要四道路に愛称をつけました。
- 地区住民のアイデア（六七五点）を募り、地区内外の関係各位により入賞者を決定し表彰状を贈りました。

《道路名》

- ① わかば中央通り
- ② 山の手通り
- ③ 郵便局通り
- ④ わかば産業通り

この道路名を内外に周知すると共に、道路の愛称に愛着を持つていただきたいと、このほど産業振興機構近くに、縦四メートル、横五メートルの看板を設置しました。

毎年メインテーマ（絆、仲間など）を設定し、約一八、〇〇〇個のLEDで彩り、若葉台保育園児のランタン、若葉台小学校生徒によるキャンドルナイトを合わせて実施し好評を得ています。年々グレートアップを目指し、「若



平成25年度 先進地研修視察概要

本年度の先進地研修視察は、市民が主役のまちづくりに積極的に取り組まれている、広島県福山市自治会連合会を選定し、去る6月27日（木）午後1時10分から福山市熊野公民館で開催されました。

研修会には、鳥取市自治連合会から、池原範雄会長を始め地区会長29名（代理出席七名を含む）と事務局2名が参加し、福山市自治会連合会からは貝田顧問、櫻井副会長ほか役員、岡本生涯学習センター所長、佐藤公民館長、事務局員など多数のご出席をいただきました。

研修会では、両市自治連代表のあいさつに始まり、テーマの一つである「協働のまちづくり」について、小学校区を基本に公民館単位に設立された「まちづくり推進委員会」に在任行政職員が配置されているなど、懇切丁寧な説明を受けました。その後、具体的な実践例として、地域住民の運営による「法人熊野ふれあい広場“クローバー”」について、過疎化が進む地域のふれあい場所として①販わいの創出、②コミュニティの再生、③買物不自由者の解消支援など、地域活性化を目指す活動を発表していただきました。

鳥取市自治連合会からは、平成の大合併に伴う「自助」「共助」「公助」の在り方や、自治会運営など掘り下げた質疑応答が活発に交わされ、実りある研修となりました。

研修会終了後、ふれあい広場“クローバー”を見学し、今回の全日程を終了しました。（文責 西村）



美保南地区

♪ホニニョイトコ、美保南

美保南地区区長会

会長 西垣佳則

美保地区より分離誕生して二十七年。当地区には『美保南音頭』という地区の歌があります。♪ホニニョイトコ、美保南の一端をご紹介します。

◆どこへ行くにもアクセス抜群

鳥取駅へ車で五分。地区のど真ん中を国道二十九号と五十三号が立体交差しており、さらに鳥取自動車道の開通でどの方面へ行くにも交通至便なところに立地しています。それだけに交通事故の危険性も高く、地区をあげて交通安全運動に取り組んでいます。

◆公民館を拠点に多彩な活動

こどもと地域のふれあい事業「子ども将棋教室」「子ども生け花教室」や「男の料理教室」「おせち料理講習会」。



一年のスタートは元旦恒例「新年互礼会」

地域の特性を活かした「野菜作り教室」「かま焼き」「しめ縄づくり」などの活動は多彩です。その模様は毎月発行の「公民館だより」やHPで紹介しています。

◆身近で普段着の地域交流

元旦恒例の新年互礼会、全教職員と地区住民で開く「小学校教職員歓送迎会」。田植え・稲刈り体験、登下校時の安全誘導など地域と学校の交流や福祉施設「なごみ苑」の餅つき奉仕など各種団体が主体となって地域と密着した普段着の交流事業を展開しています。



美保南小学校の「遠足ボランティア」

◆災害に強い、活力あるまちづくり

村まつりや地藏盆など伝統行事の残る昔からの集落と昭和五十年代以降に生まれた新しい町区は、お互いの長所を学び合いながら、まちづくり協議会が提唱している『住みよい・魅力ある美保南』を目標に喫緊の課題である防災組織の確立・整備を推進しています。

このように、美保南に住んでいてよかったと実感できる地域をめざして努力していきます。

浜坂地区

**浜坂地区が
目指すのは
みんなの心の
オアシスです**
オアシス浜坂まちづくり協議会
会長 西垣満昭

私たち浜坂地区の協議会が設立されたのは平成二十一年二月、市が「協働のまちづくり元年」と位置づけた年でした。

当地区は市の北東端に位置し、四十年くらい前から宅地造成が進み、ベットタウンの色合いが濃厚です。近年、核家族化・少子高齢化が進展する中で、個性の尊重、プライバシーの保護が叫ばれ、年々人間関係が希薄になり、住民の孤立が憂慮されています。

このよう
な時に、人
と人がつ
ながるた
め「あいさ
つ運動の推
進」を最重



大盆踊り大会を盛り上げる

援制度の普及促進に努め、浜坂地区が、いつまでも安心・安全に暮らせる地区であると誇れるまちづくりを進めたいと考えています。

点の行動
目標に据
えてコミ
ュニティ
形成の核
とし、さ
らに、従
来からの
事業を自



公民館祭で賑わう「まち協」の出店

治連合会とまちづくり協議会が共催して、地域住民を繋ぐ

同運動会・納涼祭・敬老会・公民館祭り」と位置づけ、「集

い ふれあい 助け合い」をテーマに取り組み、概要を知

らせる「まちづくりNEW S」も六十五号に及んでいます。

今後は、地域の防災力の向上を図るため「防災マップ」の作成と、災害時要援護者支

鳥取県自治会連合会の動き

平成二十四年度

◆中四国自治会連絡協議会

第十三回中四国自治会連絡協議会が、二月二十一日、米子市「芙蓉別館」を会場に開催され、岡山、広島、山口、香川、高知、鳥取の各県（市）

連代表、計八十名が参加し、来賓として平井鳥取県知事、

野坂米子市長にご臨席いただいた。（平成二十五年度は香

◆鳥取力創造まつり2013

（三月二十日、とりぎん文化会館）

・鳥取県主催、鳥取県自治会連合会後援。県内自治会関係者約四百名参加。（うち

平成二十五年年度

◆平成二十四年度監査会

（四月三日）

◆第一回正副会長会

（六月十日、倉吉市役所）

◆平成二十五年年度総会及び研修会

（七月十一日、鳥取市福祉文化会館）

◎総会

・平成二十四年度事業報告及び収支決算報告、監査報告

・平成二十五年年度事業計画（案）及び収支予算（案）

・役員選出

◎研修会

・「市町村行政の現状と課題について」

県地域振興課長

新 貞二氏

全国自治会連合会の動き

◆第一回常任理事会

（四月二十六日、根室市）

◆事務局担当者会議

（六月二十日、東京）

◆第二回常任理事会及び第一回理事會

（六月二十一日、東京）

祝 藍綬褒章受章 池原範雄 会長

平成二十五年春の褒章で、全国自治会連合会副会長並びに鳥取県自治会連合会会長として、長年住民自治活動の推進にご尽力された功績により藍綬褒章を受章されました。

五月十六日、プリンスホテル東京での伝達式終了後、宮中「豊明殿」において天皇陛下に拝謁されました。

後記 編集

「自治連だより」創刊から八年が経過し、その間、関係各位のご協力により、各地区の特色ある自治会活動など、全市四十一地区の情報も第十四号で一巡しました。

また、懸案でありました賛助広告欄についても、市当局のご理解により財源増額をいただき、お陰様で広告なしで編集することができました。

今後、この好意に添えるべく、委員一同更なる紙面の充実に努める所存ですので、ご協力をお願いします。

（広報委員長 渡邊）